

Ja-Net

October 2017 No. 83

季刊ジャネット

Ja-NetはJapanese Networkの略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

スリーエーネットワーク

Contents 目次 2017年10月25日発行

- View from the Other Side 3
ジョロベコヴァ・シリクさん(キルギス)
- あちこち日本語ご紹介(国内編)..... 4
福島県 会津若松市
- あちこち日本語ご紹介(海外編)..... 5
マレーシア ペナン島
- 教材紹介 6
『新完全マスター単語 日本語能力試験N2 重要2200語』
『日本語初級大地』ラインナップ
スリーエーネットワークのアプリ一覧
- なんでも情報BOX..... 8

巻頭
寄稿

アジアの視覚障害者に自立を—IAVIの46年—



社会福祉法人
国際視覚障害者援護協会 理事長

石渡博明

IAVIの役割

文化庁及び国際交流基金の発表によれば、現在、外国語としての日本語を学習している人々は400万人近いと言われていす。そうした日本語学習者のほとんどは墨字(活字や手書き文字)使用者で、点字による日本語学習者はおそらく100人を大きく超えることはないでしょう。一方、日本語能力試験公式サイトのトップページには「点字ファイルダウンロードはこちら」とあって、点字使用による受験者一視覚障害者を対象とした配慮が見られます。そして、この点字使用による受験者の多くが私ども(社福)国際視覚障害者援護協会の関係者ではないかと推察されます。

国際視覚障害者援護協会(International Association for the Visually Impaired: IAVI)の歴史は、日本に滞在していた台湾・韓国・香港の視覚障害を持つ学生4人がお互いを励まし合い、支え合う親睦団体「国際盲人クラブ」(International Club of the

Blind: ICB)を1971年に発足させた時にさかのぼります。初代理事長の金治憲さんは、視覚に障害があるということで留学生になることができず、在日韓国人のつてを頼って来日、千葉県立盲学校で三療(あん摩・マッサージ・指圧、鍼、灸)を習得しました。その後、和光大学でアジアにおける視覚障害者の実態調査を行い、アジア地域の視覚障害者が勉学の上でも就労の上でも多くの困難をかかえていることを実感したため、1981年、ICB奨学制度を創設し、日本への三療の留学を支援するようになります。

一部の国を除いて各国とも視覚障害者の職業としてはマッサージ師の比率が高いですが、医療マッサージとしての専門性・専門教育が不十分なため、より高度な知識と技術の習得が望まれています。日本では徳川時代から三療が視覚障害者の職業として長い歴史を持ち専門性の高い教育が確立、充実していて、世界的に見ても視覚障害者の職業的・経済的な自立率が高いことで知

No.281 2017年9月4日発行
社会福祉法人国際視覚障害者援護協会

SSKO
ロータス通信

〒174-0052 東京都板橋区蓮沼町 20-18
電話 03-5392-4002 FAX03-5392-4128

維持会費：個人 3,000円、5,000円、10,000円
法人 10,000円から
郵便振替 00100-1-650252
e-mail: info@iavi.jp
ホームページ: http://www.iavi.jp/

ご支援をありがとうございます!
視覚障害留学生の存在、活躍、支援の輪を
もっともっと発信していけたらと思います。

理事長 石渡 博明

あいかわらすの経済状態の中、また毎度のお願いにもかかわらず、本誌前号での会費のお振り込み要請に対して、多くの皆様方からご寄付も含まれてお届いたこと、誠にありがとうございます。あらためて感謝申し上げますとともに、援護協会事業に対する皆様方の期待の大きさに身が引き締まる思いです。

さて、今年度の留学希望生の選考についてですが、試験の事情でだいぶ遅れたものの、去る7月14日に選考会を実施、スカイプを使って日本語会話力・日本語の読みのチェック、確認を行いました。この間、いくつかの国・地域から打診がありましたが、あいにく実際の選考に臨むことができたのは3ヶ国3名で、その中からマンマのティン・チョウ・リンさん(略称:リン、19歳、男性、弱視)が見事合格、9月末の入国に向けて準備を進めていく運びとなりました。

ところで、この間、各地での福祉の街づくりへ向け取り組みやユニ

IAVIが発信する、支援者と留学生を結ぶ情報誌『ロータス通信』

られています。

そうしたことからIAVIでは、アジアを中心とする発展途上諸国の視覚障害を持つ若

者を日本に招聘し、盲学校（視覚特別支援学校）高等部の専攻科で三療を学んでもらい、帰国後は習得した技術で経済的自立・社会参加を果たすとともに、滞在中に体感した日本の福祉制度や福祉の在り方を社会に還元し、福祉のリーダーとして活躍してくれることも目標にしています。

日本語力を補うために

これまでの実績としては、韓国・中国など東アジア、ベトナム・ミャンマーなど東南アジア、モンゴル・キルギスなど北東～中央アジア、スーダン・ケニアなどアフリカ諸国等、19ヶ国から84人を招聘してきています。帰国後は、治療院で働いたり、自身で治療院を開設したり、障害者相手のリハビリテーションセンターの講師をしたり、盲学校の先生をしたり…と様々な活躍をしています。が、もちろん、すべてがめでたしめでたしというわけではありません。盲学校の入学試験に合格できず、また進級できずに途中で帰国を余儀なくされたりと、せっかく来日したものの、志半ばで泣く泣く国へ帰った留学生も一人や二人ではありません。

こうしたケースのほとんどは、日本語力の不足によるものです。IAVIでは、毎年9月末に2名の視覚障害留学生候補を招聘し、板橋にある事務所兼研修施設で6ヶ月に渡り、日本語・日本点字のブラッシュアップ、歩行訓練・生活訓練を実施し、その間に盲学校の受験をしますが、そもそも来日前の日本語学習を制度的に保障できているわけではありません。10年ほど前からは文部科学省の補助金(ODA 予算)を受けてはいるものの、法的・制度的にきちんとした位置付けがあるわけではなく、たまたまJICAや国際交流基金で派遣された日本人から日本語を学ぶチャンスがあって入門期の日本語学習をしてきた人だけがIAVIにコンタクトできる、といった不安定な状況にあります(補助金もODA 予算削減に直撃されて、10年前の3分の1に減額されてしまっています)。

日本語学習の教材は、『みんなの日本語』(以前は『日本語の基礎』)の点字版を作成し、来日前に初級、できれば中級を勉強してきてもらうのですが、学習環境になかなか恵まれず、来日後の日本語学習の先生方にはだいたいご負担をおかけしています。それでも6ヶ月の予備研修はまだいいほうで、

盲学校に入ってから専門科目の学習にはとても手を焼いています。

視覚障害者に立ちはだかる壁

ほとんどの留学生がお世話になっている筑波大学附属視覚特別支援学校では、1年生の前期には留学生のための特別クラスを設けてくださっていますし、先生によっては放課後や土日も補習をしてくださっていますが、何しろ3年後に控えている国家試験を目指して、『解剖学』『生理学』『病理学』『臨床医学総論』『臨床医学各論』『医療と社会』等々といった専門科目だけではなく、三療の基礎となっている「東洋医学」や「経絡・経穴」といった、現代の日本人にはほとんど馴染みのないものまでマスターしなければならないのです。

しかも、点字は漢字かな交じり文とは違って、基本的にはオールかな文字表記と同じですから、同音異義語の判別がひじょうな負担となっているようです。「かえるがとんだ」とあって、日本の蛙は空を飛ぶのか、といった初級段階でありがちなユーモラスな誤解はまだしも、「びこつ」が鼻骨なのか尾骨なのか、「かん」とあっても肝なのか、管なのか、感なのか…と、文脈がなくとも漢字を見て意味を類推できる晴眼者には計り知れない困難が付きまとっているようです。

障害者福祉の向上を目指して

最近では、国家試験が年々難しくなっていて、晴眼者に比べて視覚障害者の合格率は毎年低く、視覚障害者が被る学習上・受験上の不利は歴然としています。そうした中、視覚障害の上に日本語を外国語として学ぶ留学生の困難さは言うまでもないでしょう。とは言え、嬉しい話がないわけではありません。3年半前に来日したキルギスのシリンさん(女性、強度の弱視)は、初めての挑戦で見事三つとも合格という快挙を成し遂げました。IAVIの留学生としてまた非漢字圏の留学生としては、4年ぶりの朗報でした。ただし、日本の国家資格がキルギスでそのまま通用するわけではなく、IAVIとしては帰国後の就労まできちんと責任を果たさなければならず、貧乏所帯としては何とも辛いところです。

ちなみに、卒業後、国家試験後について言えば、先述のように帰国後の就労がきちんと保障できたケースの他に、スーダンのよ



三療の国家試験に見事3つとも合格したキルギスのシリンさん

うに内戦が激化して帰国が困難になったり、日本の地で伴侶を得て日本の盲学校の先生になったり…と、人生いろいろです。ただ、日本に残った人たちも母国の視覚障害者を支援するための団体を立ち上げるなど、日本で学んだことを様々な形で母国に還元し共有化しています。それだけではなく近年は、日本の様々な障害者サービスを動画に撮ってYouTubeにアップ、自国の障害者福祉の向上に役立てようといった試みも行われてきています。

小さな団体の小さな取り組みですが、認知度も徐々に上がってきたと見えて、先日、ウクライナの障害者を支援しているドイツの団体やニカラグア、ホンジュラスといった地球の裏側からのお問い合わせも飛び込んでくるようになりました。あいかわらず綱渡りの事業運営ですが、視覚障害者の自立支援の充実へ向けて、今後とも一步一步、地道に歩んで行きたいと思っています。

石渡博明 (いしわたひろあき)

社会福祉法人国際視覚障害者援護協会 (IAVI) 理事長。

2008年財団法人海外技術者研修協会 (AOTS: 現・海外産業人材育成協会) 退職後、IAVIに勤務。2010年、理事長に就任。

AOTSでは、発展途上国研修生への日本語教育、研修担当等に従事する。

学習者の目

View from the Other Side

このコラムでは、学習者の視点での話題をお届けします

これからは私が助ける番

— キルギスの視覚障害者に日本で学んだことを伝えたい —

20歳—夢が消えた

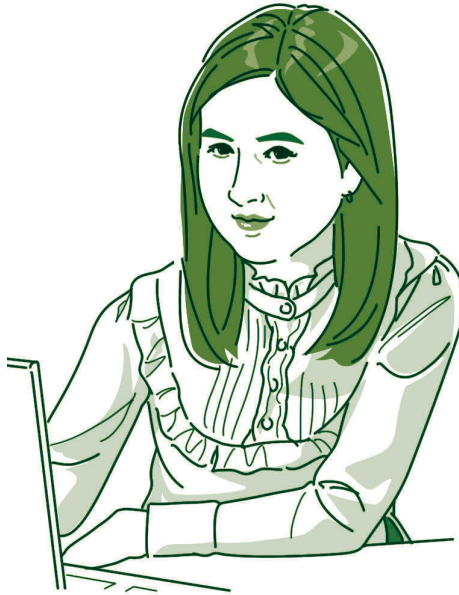
私は生まれつき視力が弱かったのですが、子どもの時はあまり不自由を感じませんでした。キルギス南部の田舎で生まれて、羊の放牧など家の仕事を手伝っていました。夕方になると岩と羊の区別がつかなくなって羊を集めるのに困ったこともありましたが、でも、あまり気にせず、小学校から高校まで普通学校に通いました。

高校の途中で急に視力が落ち、黒板の字が読めなくなりました。高校はどうか卒業できましたが、大学進学は断念しなければなりません。いくつもの病院で診てもらっても、私の目はぜんぜんよくなりませんでした。20歳の時、「自分の人生は終わった」と思いました。ジャーナリストになりたいという夢が消えてしまったのです。目の見えない自分がどうやって生きていけばいいのかわからなくて、将来は真っ暗。外出しない、だれとも会わない、笑うことができない。そんな私に周りの人は声をかけられなくなってしまいました。私も人間関係にストレスを感じてしまい、寝て起きて、食べて、泣いて、の3年でした。

心配した母は私を音楽学校に入れてくれました。学校は視覚障害の学生が初めてで、先生方も教え方がわからず、私もどうやって勉強したらいいのかわからなくて、結局は退学してしまいました。

日本へ—私は成長したい

姉が探してくれた首都のビシュケクにある盲人協会で、医療大学のマッサージコースを紹介してもらいました。そこで、日本からマッサージの指導に来ていた植草先生と出会いました。先生は自分の帰任後は、キルギス人に後を継いでほしいと「日本で鍼灸マッサージが勉強できる制度」について話してくれました。日本語も教えてくれると聞き、ぜひ日本へ行ってみたいと思いました。『みんなの日本語』の点字版で日本点字と日本語



ジョロベコヴァ・シリ

1986年キルギス・オシュ近郊で生まれる。

網膜色素変性症で先天性の弱視（目の前に人がいるのはわかるが、だれかはわからない）。小学校から高校まで地元の普通校で学ぶが、高校生の頃、視力が急に落ちる。2006年ビシュケクの医療大学マッサージ校入学。2013年9月に来日し、IAVIで日本語学習と生活訓練。2014年筑波大学附属視覚特別支援学校入学。2016年日本語能力試験N2合格。2017年3月三療国家試験合格・盲学校卒業後、6月帰国。ビシュケクで訪問マッサージの仕事開始。クリニックを開設予定。

会話を「初級Ⅱ」の途中まで習いました。

国際視覚障害者援護協会（IAVI）の留学生に選ばれ、2013年9月「私は変わりたい、成長したい」という強い気持ちで日本に来ました。

IAVIで日本語を中級まで勉強しました。目で確認できないので、拗音・長音が難しかったです。キルギス語と日本語は文の構造が似ているのでそんなに難しく感じませんでした。

IAVIでは白杖を使った歩行訓練、日本事情や日本の福祉についても勉強しました。

苦手だった白米も食べられるようになりました。

翌年4月、待望の盲学校に入学、学校ではキルギスにはなかった点字の教科書や手で触れる模型で専門の勉強ができました。先生は子どもに教えるように、丁寧に説明してくれましたが、専門の日本語は同音異義語が多く、とてもたいへんでした。点字でメモを取るの間に合わなくて、録音して復習しました。目標はあんま・マッサージ・指圧、鍼、灸の国家試験合格です。毎日それだけを考えて頑張って勉強しましたが、「落ちたらどうしよう」と不安でした。今年（2017年）3月28日、合格発表をIAVIで聞きました。合格できたのは、ほんとうに皆さまのおかげだと思いました。

キルギスへ帰って—これからは私が助ける番

6月、国へ帰りました。

日本に行って一番よかったのは自分を見つけたことができたことです。人に助けてもらわなければ何もできないと思っていた私が、白杖があれば一人でもどこへでも出かけられ、自信ができました。

キルギスしか知らなかった私が、日本だけでなくアジアの友人もできて、世界が広がったことも大きな収穫でした。

これまで多くの人に助けてもらいました。これからは私が助ける番です。キルギスの田舎には、盲学校も点字も知らず、家の中にいるだけの視覚障害者が大勢います。そんな人たちに日本で経験したことを教えてあげたいです。

まだまだ勉強しなければならないことがたくさんありますが、これからも皆さまと力を合わせて、前に進みたいと思っています。

『みんなの日本語』点字版はこちらで購入できます↓

<http://www.iavi.jp/seller/item/>



日本語ご紹介

国内編

福島県 会津若松市



豊かな会津、福島になるための橋渡し

会津若松市国際交流協会

小林真司

会津若松市は、千葉県とほぼ同じ大きさの福島県会津地方(約 27 万人)の中心都市です。人口 12 万あまりで歴史・自然に恵まれ、市内には 40 近くの国と地域から約 720 名の外国籍市民がともに暮らしています。

当協会は、1996 年に市民・民間団体・行政が一体となって国際交流を推進するために設立されました。国際交流、在住外国人支援、ボランティア育成など、多岐に渡る活動をし、今年で 21 年目を迎えます。

日本語会話教室や子ども日本語ひろば

現在活動している日本語教室は、会津若松市が 1993 年に開始した日本語教室を、協会が引き継ぎ、在住外国人支援事業のひとつとして昼のコースの日本語会話教室から始まりました。現在は、春と秋に、昼と夜のコースで『みんなの日本語』を教材の中心に日本語会話教室を実施しています。また、学習者からの「もっと自由に日本語を話せる場がほしい」との要望に応じる形で、日本語サロンを開始。生活者としての外国人への日本語支援の視点を踏まえ、教材やテーマも工夫し、七夕や書初めなど季節ごとの風習や行事などもまじえながら、週一回、通年活動しています。新しいメンバーが加わると、全員で自己紹介をし、コミュニケーションがスムーズにできるような環境作りを心掛けています。

一方、外国にルーツをもつ子ども達向けに、月 2～3 回「子ども日本語ひろば」を実施し、教科学習や、学校や日本での生活に早く慣れるための手伝いをしています。同じ悩みを持つ子ども達の居場所の役目も兼ね備えており、広い会津地方では会津若松



「子ども日本語ひろば」の様子。みんな真剣です！

市だけの取り組みのため、周辺の市町村から参加する子ども達もいます。

さらに年に 1 度、日本語教室の学習者や地域で暮らす外国籍住民の学習成果を発表する場として、「にほんごではなそう」(昨年で 8 回目)を開催しています。自由なテーマでスピーチをすることは、学習者の励みになるとともに、市民に外国籍住民の状況を知ってもらう機会としての役割も果たしています。

最初は日本語がまったくわからなかった人が、教室に通い始めて少しずつ日本語が話せるようになり、ボランティアと触れ合いながら日本文化を少しずつ理解することで、行動範囲を驚くほど広げていく姿が目に見ることがあります。小・中学校や公民館などで自分の国のことを日本語で紹介したり、国際交流フェスティバルや地域のイベントで料理や国の紹介ブースを出したり、市内で就職する人もおり、協会の活動をきっかけに活躍の場や交際範囲を広げ、地域に溶け込んでいっています。

日本語ボランティアは学習者ひとりひとりのニーズに応えられるようなきめ細かな対応を行っています。例えば各教室のボランティアの世話人役が、日本語教室の学習活動がスムーズに行くようなサポートをしています。また、日本語ボランティア養成



ボランティアも学習者も、ともに学ぶ気持ちを忘れずに…

講座や勉強会などを通じ、お互いに高め合いながら、より良い学習者のための場所となるように、学んだことを日々の活動に生かしています。

ともに学び、ことばや心の壁を越え、安全・安心な暮らしのために

2011 年の震災時、普段の生活を一日も早く取り戻すべく教室を再開しましたが、教室は学習者が、震災での不安なことを話したり、お互いの気持ちを共有できる場であり、心のよりどころとしての役割も担っていると改めて感じました。

学習者のさまざまなニーズや時代の状況に対応しながら、ボランティアも学習者も、ともに学ぶ気持ちを忘れずに活動を続けています。日本語の活動を通じて、外国籍住民のみなさんがことばや心の壁を越え、安全・安心に暮らし、「ここ」に来てよかったと思ってもらえるような活動にしていけたらと望んでいます。国や言語の違いではなく「みんなおなじ、みんなちがう」目の前のひとりひとりと向き合いながら、それぞれのニーズや特徴を引き出し、日本語を通じてお互いが認めあえる元気で豊かな会津、そして福島になるための橋渡しとして活動していきたいと考えています。



日本語ご紹介

海外編

マレーシア ペナン島



東洋の真珠—ペナン島から 日本語を学びたい民間人のために

ペナン日本語協会

会長 鍾 雅思

老若男女が学べる日本語教育機関

ペナン日本語協会はマレーシア北西部の南北約 24 km、東西 15 km のインド洋に浮かぶ美しい緑の島にあり、対岸のマレー半島とフェリーやペナン大橋で結ばれている。

18 世紀末、この地域最初の英領直轄植民地となり、東西貿易の中継地・自由港として発展してきた歴史的背景を持つ。現在は観光都市、リゾート、二つの魅力を備えた観光地、それに、日系を含む国際的有名企業が経済活動を営む商・工業都市としても繁栄している。

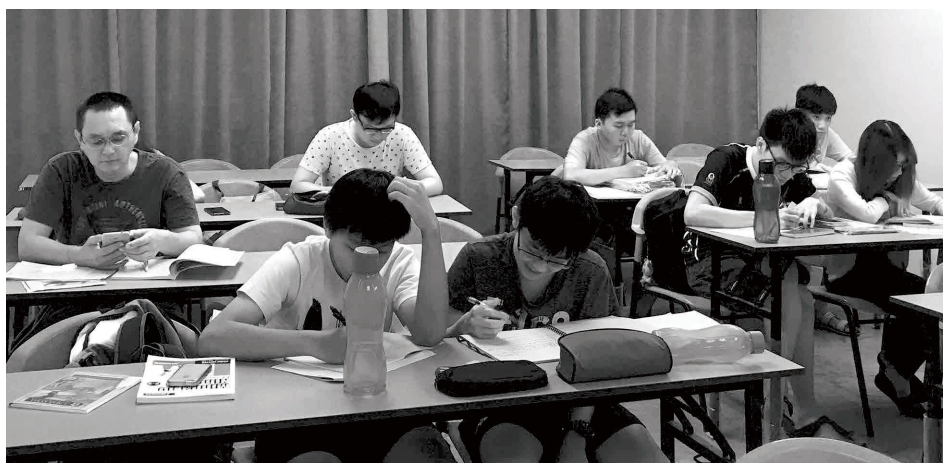
人口構成は主にマレー系、中国系、インド系、その他と多様であり、多民族、多文化が混在、平和的に共存している。これが認められて、州都ジョージタウンの一部地域が 2008 年ユネスコ世界遺産に登録されている。

ここでは大学や中等教育段階の公教育でも日本語が学べるが、日本語協会は民間人に学ぶ機会を提供している。週日の夜及び日曜日の午前中にクラスがあり、老若男女誰もが学べる非営利の日本語教育機関である。

日本語能力試験の実施機関にも

1980 年初め、日本語の観光ガイドや通訳の需要が高まり、帰国留学生 Alex Tan 氏が個人的に始めたクラスが、当時の熱心な関係者の働きかけや日本総領事館の力添えもあって、1982 年に州政府認可の団体として正式に発足した。以来ユニークな運営方法を採用、今日に至っている。

まず、運営にかかわる全員がボランティアであること。みんなそれぞれの仕事をもち、それぞれの都合のつく期間、時間の範



10代から50代の学習者が共に学ぶ教室風景

囲で活動している。教師陣も同様。当協会ですんだ後、教師養成コースを終え、教師として戻ってきた卒業生もいる。当地の日本人学校の教師の協力も得られている。協会の運営は学習者を含めた全メンバーにより選ばれた評議員の運営委員会で決められ、実施される仕組みになっている。

特筆すべきは、1990 年に自前の施設を現在の場所に獲得できたこと。メンバーのアルバイト代を極力抑え、各種の助成金を全額貯金に回し、イベントで募金して実現できたのである。おかげで活動範囲が広がり、国際交流基金の北部地域のセミナー会場やサテライトリソースセンター、年 2 回の日本語能力試験北部地域実施機関にもなっている。

「みんなの日本語 初級・中級」を使って

コースは 5 段階あり、原則 1 段階 4 か月、週 2 回 2 時間ずつ、計 70 時間前後に設定されている。使用教科書は「みんなの日本語 初級 I・II」と、その「中級 I・II」。1 課～13 課クラスは 3～4 クラスあり、学習者数計およそ 70～80 人。14 課～25 課クラス、26 課～38 課クラス、39 課～50 課クラスはいずれも 1～2 クラスで、学習者数は各クラス

およそ 10～20 人。コースの日程は教師と学習者の都合で決められ、開始日も終了日も異なる。上級段階は週 1 回または 2 回で教師、学習者両者の都合次第である。「中級 I・II」を使用。5～6 クラスあり、1 クラスの学習者は 4 人～10 人、計およそ 25 人～30 人。忘年会で、成績優秀者や、協会運営上の長期貢献者の表彰が行われる。学習者は会社員、工場労働者、商人、学生、子供等様々だが、中国系が多い。

次世代に良き人材を

教室の外ではいろいろな言語が飛び交い、言語学習の意欲が高い上、企業によっては外国語学習証明書があれば、僅かながらも給料がアップする制度もある。日本語に関しては、西洋一辺倒ではなく、東洋からもバランスよく学ぼうという 80 年代の国を挙げた東方政策、最近の Malaysia My Second Home による 10 年のビザの発給で、日本文化の教養を身につけた、時間的余裕もある日本人退職者の長期滞在で学生の学習環境が著しく良くなっている。

今の懸念は次世代がよい人材に恵まれるだろうかということである。

教材紹介

『新完全マスター単語 日本語能力試験N2 重要 2200 語』

石井怜子 監修 小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子・塩田安佐・鈴木英子・山崎洋子・王亜茹・斎藤明子・田川麻央・守屋和美・米原貴子 著
A5 変 358 頁 1,600 円+税 12 月発行(予定)

**NOW
PRINTING**

バランスよく語彙力を身につけるために

鈴木英子

本書は、既刊『新完全マスター単語 日本語能力試験N3 重要 1800 語』と同シリーズの教材で、日本語能力試験N2 合格を目指す学習者のための単語帳です。

中級や上級の学習者と接していて、レベルに応じて順調に日本語力が伸びていく人とそうならない人があることを感じたことはありませんか。初級では同じように上達していたはずなのに、いつ、どうして差ができたのでしょうか。その一つの要因は、中級および上級らしい語を獲得しているか否かにあると思います。中級では、文型を基に多様な表現で肉付けすること、場面や待遇によって語彙を使い分けること、少し抽象的な語彙が使われた内容のものを読む力などが必要になります。豊かな表現を可能にする語彙力を得ることが日本語上達の鍵となるのです。中級での語彙学習は、初級から中級へ脱皮する過程において極めて重要な位置にあるといえます。

日本語能力試験で、「日常的な場面で使われる日本語」に加え、「より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解すること」が必要な中級後半においては、少し硬い、抽象的な言葉を使った文章を理解する必要があります。単語は教科書や読解・聴解の授業で勉強しているから大丈夫……。そうでしょうか。単語を教科書等から付随的に学ぶだけでは、量的に全く足りませんし、全体をバランスよく学ぶことができません。

毎日少しの時間でも単語学習に使って中級後半に必要な単語を効率的に学習してほしい、このような願いを込めて本書を作成しました。

《教材の特長》

・本書では、中級後半に必要な単語 2200 語が、複数のコーパス、過去の日本語能力試験の資料などをもとに厳選してあります。それぞれの語には英語・中国語・ベトナム語訳とアプリの音声が付いています。

・全体構成は、覚えやすさに配慮して名詞(1456 語)・動詞(318 語)・形容詞(201 語)・副詞その他(225 語)の別に語を提示しています。学習者が必要なところから選んで学習することもできます。

・単語の例文は、文が表す状況が具体的にイメージできる例文を心がけ、単語の理解と記憶を助けるようにしました。特に、N2 で習得したい抽象的な単語は、それにふさわしい例文を付けました。

・N2 では、複数の意味を持つ多義語の学習も重要です。これらには、用例を載せました。

・約 200 語ごとに、学習単語の一部が入った文章「読んでみよう」があります。実際の文章での使われ方が分かると同時に、学習成果の確認ができます。また、音声により聞いて分かるかの確認もできます。

・N2 レベルで必要な接辞とその使用例を載せています。また、単語に関連してよく使われる複合語や派生語などが付いています。これらにより更に単語の数を増やせます。

・持ち歩きに便利なコンパクトサイズで、いつでもどこでも気軽に開いて学習ができます。

《クラス授業に取り入れてみませんか》

本書は、授業と自宅学習を組み合わせることも可能です。例えば

① 1 日あたりの学習語を指示。学習は宿題にする。

指導者：「○番から○番まで勉強してきてくださいね。宿題ですよ。」

② 教室で発音と意味を確認。学習は自宅で。

指導者：「発音を聞いてください。…(音声)…意味は、△△ですね。発音しましょう。…家で、勉強してください。」

③ 教室で発音と意味を確認。難しい単語は例文を読んで一緒に確認。自宅で復習。

指導者：「発音を聞いてください。…(音声)…意味は、△△ですね。発音しましょう。□□は難しいので、例文を読みましょう。家で、復習してください。」

授業で単語学習に割けるのは短時間だと思いますが、学習者を知っている指導者だからこそ、学習者の意欲を引き出し、必要な部分から効率的に単語学習を進めることができると思います。

名詞を 1 日 20 語、動詞・その他を 1 日 15 語学習するとすれば、学習期間は約 4 か月です。語彙力は短期間では伸ばせません。本書・音声アプリなどを組み合わせた多様な方法で繰り返し学び、中級後半に必要な単語の量を増やしていきましょう。

『日本語初級 大地』ラインナップ

<日本語初級1 大地>

メインテキスト	2,800円
文型説明と翻訳 英語版/中国語版/韓国語版/ NEW ベトナム語版	各 2,000円
基礎問題集	900円
漢字学習帳(英語版)	1,400円
教師用ガイド「教え方」と「文型説明」	2,800円
NEW 文法まとめリスニング 初級1—日本語初級1 大地準拠—	2,200円

<日本語初級2 大地>

メインテキスト	2,800円
文型説明と翻訳 英語版/中国語版/韓国語版/ ベトナム語版	各 2,000円 1月発行予定
基礎問題集	900円
漢字学習帳(英語版)	1,400円
教師用ガイド「教え方」と「文型説明」	2,800円
文法まとめリスニング 初級2—日本語初級2 大地準拠—	価格未定 2018年発行予定

※ 価格は全て本体価格です。



<補助教材>

●語彙訳

当社ウェブサイトより自由にダウンロードしてご使用いただけます。

インドネシア語、タイ語、ベトナム語(初級2のみ)、中国語繁体字、スペイン語、ポルトガル語、ビルマ語

※ シンハラ語(年内公開予定)

<http://www.3anet.co.jp/ja/2823/>

●『大地』お役立ちリンク集

著者お勧めの授業準備の際に使える便利なサイトを紹介しています。『日本語初級 大地』に限らず、活用できます。

<http://www.3anet.co.jp/ja/2156/>

●アプリ



文法まとめリスニング 初級1 —日本語初級1 大地準拠—

書籍付属のCDと同じ音声聞けるアプリ。音声のみは無料。スクリプトは要課金(120円)。

<http://www.3anet.co.jp/ja/6073/>

スリーエーネットワークのアプリ一覧

初級日本語の音声アプリ



みんなの日本語初級1 第2版

聴解タスク 25

書籍付属のCDと同じ音声聞けるアプリ。音声のみは無料。スクリプトは要課金(120円)。

ビジネス日本語の音声アプリ



人を動かす!

実戦ビジネス日本語会話 中級1



人を動かす!

実戦ビジネス日本語会話 中級2

書籍付属のCDと同じ音声聞けるアプリ。リスニング、シャドーイング、ロールプレイ、3種類の練習が可能。第1課は無料で、第2課以降は要課金(120円)。

日本語能力試験対策のアプリ



JLPT N1 語法

新完全掌握必背句型 123



JLPT N2 語法

新完全掌握必背句型 198



JLPT N1 文法

新完全マスター 필수문법형식 123



JLPT N2 文法

新完全マスター 필수문법형식 198

『新完全マスター文法 日本語能力試験 N1/N2』の中国語版と韓国語版のアプリ。

「覚える」「練習」「テスト」と段階を踏んで練習可能(960円)。無料の Lite 版あり。

※ アプリの価格は全て税込価格です。

(2017年10月25日現在)

アプリ一覧ページ



←上記アプリの詳細は左 QR コードよりご覧いただけます。



なんでも情報 BOX

Books ほん

すべて本体価格です

みんなの日本語初級I 第2版 翻訳・文法解説 ビルマ語版	11月発行予定	2,000円
新完全マスター単語 日本語能力試験 N2 重要2200語	12月発行予定	1,600円
新完全マスター語彙 日本語能力試験 N3 ベトナム語版	1月発行予定	1,200円
日本語初級2 大地 文型説明と翻訳 ベトナム語版	1月発行予定	2,000円

Seminars セミナー

介護に関わる外国人への日本語指導～『はじめて学ぶ介護の日本語 基本のことはば』を使った授業の一例～

講師：三橋麻子、丸山真貴子

(明海大学・大原学園 非常勤講師)

東京

日時：12月9日(土) 14:00-16:00 (受付開始 13:30)

会場：TKP 麹町駅前会議室ホール 8A

(東京都千代田区麹町 3-2 麹町共同ビル 8階)

定員：80名(先着順。定員になり次第締め切ります。)

大阪

日時：1月28日(日) 14:00-16:00 (受付開始 13:30)

会場：愛日会館(大阪府大阪市中央区本町 4-7-11)

定員：60名(先着順。定員になり次第締め切ります。)

2会場共通 参加費：無料

主催：スリーエーネットワーク

N3レベルの語彙力を養う授業づくり

～『新完全マスター語彙 日本語能力試験 N3』を使って～

講師：伊能裕晃(東京学芸大学 非常勤講師)

名古屋

日時：2月18日(日) 14:00-16:00 (受付開始 13:30)

会場：ウインクあいち 会議室 1202

(愛知県名古屋市中村区名駅 4-4-38 愛知県産業労働センター)

定員：80名(先着順。定員になり次第締め切ります。)

大阪

日時：2月24日(土) 14:00-16:00 (受付開始 13:30)

会場：愛日会館(大阪府大阪市中央区本町 4-7-11)

定員：80名(先着順。定員になり次第締め切ります。)

2会場共通 参加費：無料

主催：スリーエーネットワーク

上記のセミナーに関する問合せ/申込み先

スリーエーネットワーク講座係

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-4 トラスティ麹町ビル 2F

TEL:03-5275-2722 FAX:03-5275-2729

E-mail:kouza@3anet.co.jp

お申込みの際は、セミナー名(開催日)・お名前・ご所属・ご住所・お電話番号・日本語教授歴を明記してください。電話での申込みはお受けできませんので、FAX、E-mail、はがきにてお申込みください。

九州日本語教育連絡協議会 2017年度12月研修会

日本語能力試験N3合格のための語彙指導

～『新完全マスター語彙 日本語能力試験 N3』を使って～

講師：伊能裕晃(東京学芸大学 非常勤講師)

日時：12月9日(土) 13:00-16:30 (受付開始 12:30)

会場：麻生専門学校グループ福岡キャンパス 6号館

(キャンパスコア) 6階キャンパスホール

(福岡市博多区博多駅南 1-13-14)

定員：80名(先着順。定員になり次第締め切ります。)

参加費：1,000円(当日受付にてお支払いください。)

申込み：以下のいずれかの方法でお申込みください。なるべく登録フォームでのお申込みをお願いいたします。

メールでのお申込みの場合、セミナー名、お名前、ご所属を明記してください。

①登録フォーム：

<http://kokucheese.com/event/index/485433/>

②E-mail：kyunichiren1989@gmail.com

問合せ：福岡女子大学 川邊理恵

(E-mail：r-kawabe@fwu.ac.jp)

主催：九州日本語教育連絡協議会

共催：スリーエーネットワーク

Information お知らせ

『はじめて学ぶ介護の日本語 基本のことはば』教師用資料を公開!

介護に関する知識のない外国人が無理なく学習できるように考えられた、「はじめて学ぶ介護の日本語」シリーズの第1冊目、『はじめて学ぶ介護の日本語 基本のことはば』の教師用サポート資料ができました。本書を使った指導の際に役立つデータが、すべて無料でご利用いただけます。詳細はウェブサイトまで。 <http://www.3anet.co.jp/ja/6250/>

●動画：授業の進め方例(約10分)

著者による実際の授業を紹介。語彙の授業の流れや、指導のポイントをご覧いただけます。パワーポイントやフラッシュカードを使うことで、学習者を飽きさせず、テンポよく指導することができます。

●WEB：特別連載日本語教科書活用講座

教材を使った授業の流れや指導のポイントをコラムで紹介。教材の内容見本とあわせてご覧いただけます。

●パワーポイント・PDF：教師用語彙スライド

授業の中で、語彙の読み方や使い方を確認する際に便利な教師用資料です。『はじめて学ぶ介護の日本語 基本のことはば』に収録された1,500の見出し語すべてと、そのことばの特徴(共起など)を確認するためのスライド、イラストを掲載したスライド(一部)があります。

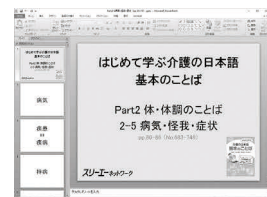
●写真データ：福祉器具など

写真があった方がわかりやすい福祉器具などの語彙について、一部を補助資料としてまとめました。



動画：
授業の進め方例

パワーポイント・
PDF：教師用語彙
スライド



写真データ：
福祉器具など

Ja-Net No. 83 季刊ジャネット

スリーエーネットワークという社名は、アジア (Asia)、アフリカ (Africa)、ラテン・アメリカ (Latin America) の三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2017年10月25日発行

●発行人 藤崎政子

●発行所 (株)スリーエーネットワーク

Ja-Net 編集室

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-4

トラスティ麹町ビル 2F

TEL：03-5275-2722 FAX：03-5275-2729

E-mail：sales@3anet.co.jp

<http://www.3anet.co.jp/>

●印刷 (株)ワコー

©2017 by 3A Corporation Printed in Japan

(禁無断転載)

●『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。『Ja-Net』第84号は2018年1月25日発行です。